

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>NTTは民営化以降、新たな通信事業者が参入し熾烈なサービス競争を強いられ、メタルから光への事業構造転換、更には今日の超高速ブロードバンド基盤の構築では採算面で厳しい中であっても、主体的に整備してきているとブロードバンドを利用している1ユーザーとして理解しています。自前設備を持つ電力系の事業者も同様であります。特筆すべきはソフトバンクのように採算の合う端末系のところだけで商売しているところは基盤の構築では真の競争相手としては問題外であろうと思います。未整備エリア10%が日本のエリアの半分を占める整備には国が責任を持って後押しすることが絶対であると主張します。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>超高速ブロードバンドの利用率向上は事業者間の競争を活性化することで上がるとは思いません。ブロードバンド基盤である光ファイバーは90%整備されているのです。普及していないのは生活に直結した使い易いサービスができあがっていないからです。利用率の向上とNTTの組織形態のあり方が関連して議論されますが全く関係ないと思います。他国と比べて格段に遅れている医療、福祉、教育といった国民生活に密着したサービスを国が責任を持って地域行政に下ろして展開すれば、おのずと利用が促進され料金の低廉化が進みます。合わせて新たな雇用も創出されます。NTTの分離・分割は返ってサービスの低下を招くだけで結局は国民が振り回され、最後にそのつけを負わされることになると危惧されます。よって、NTTの分離・分割には断固反対します。</p>